



第1回 教育部会（令和5年6月16日開催）

資料 3

委員からのご意見・質問と区の考え方

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
1	岡村委員	【プレーパーク事業について】 もと津守小学校・幼稚園でのプレーパーク開催が現在中止していることについて、中止になった回数は補われるのかどうかについて教えてほしい。	利用者の安全が第一であると考えており、安全が確認できるまでは開催が難しいと考えております。安全が確認できない場合は、出張開催を増やすことや、別の場所での開催を検討することが必要であると考えております。	当日の回答のとおり	保健福祉課 (子育て支援)
2	岡村委員	【プレーパーク事業の巡回開催について】 中学校での開催について、ご説明いただきたい。	現在使われている学校の設備を使って何ができるのかを検討しているところでございます。	当日の回答のとおり	保健福祉課 (子育て支援)
3	岡村委員	【出張プレーパークの費用について】 もと津守小学校・幼稚園に比べてどこに費用がかかっているのか教えていただきたい。	物資等の搬送するための費用が大きな違いであると考えております。	当日の回答のとおり	保健福祉課 (子育て支援)
4	岡村委員	【障がいのある子どもや親の孤立防止支援事業について】 アウトリーチを行って支援機関につなぐことができた方について、つなげた後の調査やフォローについて説明いただきたい。	つないだ後に定着するための支援も非常に大事であると認識しておりますので、支援が定着するように事業を進めて参りたいと思います。	当日の回答のとおり	保健福祉課 (子育て支援)
5	岡村委員	【こども生活・まなびサポート事業について】 大阪府は全国でも不登校が多く、西成区はその平均よりも多い。難しい問題なので、辛抱強くしっかりとやっていただきたい。	—	ご意見を踏まえ、今後も不登校児童生徒の支援に努めてまいりたいと考えております。	保健福祉課 (子育て支援)
6	岡村委員	【その他】 評判の良くない給食業者が西成区の学校にも入ることが決まり、子どもが置かれている環境が良くないことを問題視している。しっかりと目を光らせて指導していただきたい。	—	いただいたご意見につきましては、学校給食を所管する教育委員会事務局へ情報共有させていただきました。	保健福祉課 (子育て支援)

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
7	伊藤委員 【意見票】	【プレーパーク事業の巡回開催について】 居場所としてのプレーパークの意義は「常にそこにある」ことであるため、巡回型開催日数と開催箇所を増やすことはいいことであるが、そのために常設を閉じる弊害について、プレーワーカーの意見を伺いたい。	-	こどもの居場所は選択肢が多いほうがいいのではないかという考えもあり、定点的な開催についてはそういった点も踏まえて総合的に考えていきたいと思います。	保健福祉課 (子育て支援)
8	伊藤委員 【意見票】	【プレーパーク事業の目標値について】 1日の平均来場者数を目標値としているが、会場のキャパや当日の天候、人的資源が来場者数の変動の要因となりうるため、要因も含めて評価すべきである。来場者数が少ない日についても、現場が成果を上げているという日があれば、言語化し、見直すことが事業の価値に直結する。数量測定できる目標値だけでなく、本来の期待値とは何か、重層的な視点が欠かせない。質的な評価を構築できるよう西成区の子育て事情をよく知る外部の有識者も交えた議論展開をしていただきたい。	-	本市運営方針における指標は定量的な指標とするように統一的に定められているため、プレーパーク事業は一日当たりの平均来場者数を指標として設定しております。 ご意見をいただきました利用者の満足感や意識など数的な測定が困難な定性的なものについても、アンケートを実施するなど、質的な評価に繋がっていきたいと考えております。 また、西成特区構想エリアマネジメント協議会こども子育て専門部会においても外部有識者を含めた意見を聴取しており、今後の事業展開に活かしていきたいと考えております。	保健福祉課 (子育て支援)
9	伊藤委員 【意見票】	【プレーパーク事業の課題と今後の取り組みについて】 「こどもの声」を聴き取るアプローチを、加えていただきたい。令和5年度の運営方針にも反映させていただきたい。	-	昨年度プレーパークで実施したイベントのうち、夏の盆踊り、冬のジャガナリエについては参加する子ども達からの発案で実施に至りました。 今後も参加者アンケートなどからこどもの意見を聞き取る工夫をしていきたいと考えております。	保健福祉課 (子育て支援)



第2回 教育部会（令和5年7月4日開催）

委員からのご意見

議論のテーマ「西成区教育環境について」

【読書活動について】

- ・こどもの読書活動推進支援事業について、読書の面白さを感じてもらえるために、本を読んで感じたことや考えたことを子どもたちが発表できる場を作ると良いのではないかな。
- ・こどもの読書活動推進支援事業について、中学生では、学校長に推薦されている生徒が少ない。中学生では1冊の本を読み込み感じたことを文章にするなど、小学生と中学生の内容に変化を加えることも良いのではないかな。
- ・こどもの読書活動推進支援事業について、中学校での学校長推薦者がいないことがもったいないので、学校を巻き込んで一人でも多くの子どもを表彰すべきではないかな。
- ・電子書籍による読書については、夜寝る前、目に光が入ることによる身体への悪影響が懸念される。書籍の媒体は考慮が必要ではないかな。
- ・（意見票）現代の子どもたちは、幼いころから電子機器に触れ、読書環境も変わってきているため、本を読む数を競争することについては、時代に合っているか疑問である。感想文を書いてもらい、良かった人を表彰するのが良い。

【キャリア教育について】

- ・西成区内の小中学校で行っているキャリア教育の全体像を区として整理してみるのもいいのではないかな。
- ・小学校では、西成区について学ぶ機会があると、人権教育などにもつながるのではないかな。西成区について学ぶ際は、区役所もサポートし、学校・区役所・地域が連携してキャリア教育を行っていくことも大事である。
- ・中学校では、職業観について学ぶ機会もでてくるので、子どもたちの身近にあるものを作る企業との繋ぎを行っていくことも大事である。

【不登校について】

- ・地域活動協議会で、夏休みや土曜日に子どもたちの居場所事業を行っている。不登校児童生徒を対象としたものではないが、将来的に不登校になる可能性はあるので、早い段階から子どもたちと地域がつながろうという目的で行っている。しかし、小学校高学年、中学生になると塾やクラブなどで地域と子どもたちが離れていく。中学校での進路選択は人生においても大事なことで、中学校では週1回、図書室で保護者や先生に言えないことを地域の人が聞きとり、中学校内の居場所をつくる取り組みを実施している。
- ・地元の小学校に通っていない児童が多く、近所の子どもたちがどこの学校に行っているのかも分からず、保護者とも関わりがない。子どもたちの登校状況を把握できないことが物寂しい。
- ・不登校の子どもとその保護者は、朝になると学校に行くかどうかで言い争いをするとよく聞く。子どもも不登校で苦しんでいるが、親も苦しんでいる。西成区民センター等で開催されている不登校親の会に参加している保護者は仲間がいることで明るくなっている。子どもだけでなく保護者もケアし、保護者から子どもを楽にさせてあげる施策ができると良い。
- ・不登校になる要因は様々であるが、家族の中で何が起きているかということを考える必要がある。不登校の子どもたちの実情を把握しているスクールソーシャルワーカーなどから意見を聞き、世帯全体、子育て環境全体で不登校を考えていく必要もあるのではないかな。
- ・（意見票）コロナの影響もあり不登校が増加していると聞くと、現状が見えてこない。

【その他】

- ・（意見票）会議の日程について、午後2時からという開始時間が欠席者が多い原因となっているのではないかな。

※今回の区政会議では、委員に身近なテーマで様々なご意見をいただきました。いただきましたご意見は、今後の区政の参考とさせていただきます。